



福澤先生ゆかりの地を訪ねて

福澤先生ゆかりの地を訪ねる旅は、昨年の秋、大阪中津藩蔵屋敷跡（福澤先生生誕の地）や緒方洪庵の適塾、大分県の中津、蘭学を学んだ長崎とめぐりました。そして今年の5月末日、箱根・南足柄市の旅へと、風月会有志8名で訪ねました。この旅では、三田評論2016年7月号に大澤先生（中等部）が、執筆されています「慶應義塾史跡めぐり」を参考にさせて頂き、1泊2日で、箱根温泉、福澤神社、福澤小学校、旧福澤小学校、福澤幼稚園、天福寺、福澤公園等を見学しました。こんなに多く「福澤」の名が地域に残っていると驚きでした。

1日目は、箱根湯本にある「萬翠楼福住」に宿泊

① 福澤先生と萬翠楼福住（箱根湯本温泉）

福澤先生が、最初に箱根の温泉を訪ねたのは、明治3年（1870年）の9月の終わりで、この年の5月中旬発疹チフスにかかり、病状は重く、国内外の医師、氷の入手、牛乳の手配など多くの人々が八方手をつくした結果、秋口にやっと快方にむかったそうである。病後の湯治のために、熱海に逗留、その後箱根に向かい、箱根には数日滞在された。その後は、明治6年3月から約20日間、明治7年3月から家族30人ほどで29日まで逗留等々、たびたび訪れている。

その時宿泊されたのが、江戸時代初期（1625年）創業の福住旅館（現在の萬翠楼福住）である。福住旅館には、主人である福住正兄（九蔵10代目）が、明治12年に建てた石造り3階建の建物が現在する。この建物は、1997年に国の登録文化財に指定され、擬洋風建築の面影をとどめている。今回この建物に宿泊できて、時代を遡ったような体験ができた。

福澤先生は、福住旅館の分家である塔ノ沢福住楼に多く逗留されているが、それは、湯本の温泉が「冷湯にして気味なく・・・」とぬる湯であったので、これを敬遠し、熱湯を好まれた先生は、塔ノ沢を選ばれたようである。

② 福澤先生と福住正兄（婿養子としてむかえられ10代目九蔵を名のる）

30代後半の福澤先生がひとまわり年長の正兄に一目おいたのは、家運の傾いた福住家を再興し、荒廃していた湯本村を復興するなどの精神の強靱さが魅力であったらしい。その後正兄は、福澤先生の学問論、実学の考え方から強い影響を受け、一方福澤先生は、二宮尊徳の高弟でもあった正兄の見識と行動力に注目し、二人は急速に意気投合し、「地域」おこしをめぐって、日本の近代づくりについて話し合い、箱根の発展に寄与され、明治6年3月16日足柄新聞に、「箱根道普請の相談」を執筆されている。箱根宮ノ下にある富士屋ホテルの創業者山口仙之助も、明治10年慶應義塾に学び、福澤先生から「箱根に国際観光の拠点となる事業を興せ」との訓戒があったと言われている。

2日目は、「福澤」を冠にかぶせた名称が多い南足柄市を訪問

現在の南足柄市には、「福澤」の名が地域に多く残っています。昭和30年に四町村の合併により南足柄町（昭和47年に南足柄市）が誕生するまでは、「福澤村」も存在し、これらは福澤先生から頂戴した名前である。

③ 福澤先生と福澤村

慶應義塾の塾生が急増し、新銭座が手狭となり明治4年三田への移転のおり、助力を頂いたのが三田にあった龍源寺の住職、大島仁宋師だった。その後、住職が、老後を平穩に暮らそうと、現在の南足柄市千津島の天福寺に転任、こうした縁から、福澤先生はたびたび天福寺を訪ね、天福寺の隣の名主瀬戸文右衛門の家に宿泊され、周辺の山（矢倉沢や山北）で、狩猟も楽しまれた。やがて地元の人々との親交が生まれ、先生の人柄が知れ渡っていった。

明治22年に町村制が施行され、新しい村を作ることになり、新しい文明開化の指導者である福澤先生の名を頂くことになり、福澤村が誕生した。

④ 福澤先生と天福寺

足繁く先生は天福寺を訪問、寺の観音堂再建の際には、金10円の寄付をし、境内に椿を植樹している。この寺の説明文には、寄付されたことや、明治9年以来しばしば千津島の地を訪れ、近隣の人々が多大な影響を受けたことが記されていた。寺の周りには椿が育っていたが、どれがお手植えかは分からなかった。「先生お手植えの椿が美しい花を咲かせる」との記載もあった。

⑤ 福澤先生と福澤神社

福澤神社は、旧福澤村に点在した氏神さまを一カ所に集め祀った神社で、ご神体は福澤先生ではない。福澤神社は老朽化が進み、平成21年3月に社殿工事が完成し、新しい建物になっていた。南足柄市の文化財に指定され、境内には相撲の土俵もあり、この地域では大きな祭りも開かれるそうである。人の名が付けられた神社で本人が祀られていないのは、全国でもかなりめずらしいらしい。先生は、「この神社の名を自分の苗字からとったことは公言しないでほしい」と念を押したというエピソードも残っているようだ。

⑥ 福沢小学校の歴史

福沢先生の名前がついた福沢小学校は、明治34年10月19日、福澤村立福澤尋常高等小学校として開校、今年10月で創立116年目と歴史ある小学校である。小学校は、その後、火災や関東大震災、台風等で、校舎の全壊に何度も遭遇したが、地元の支援のもと速やかに復興、子ども達の教育が滞ることはなかったそうである。福沢小学校の中庭には、福沢先生の銅像があり、銅像の台には「天は人の上に人を造らず人の下に造らず」が刻まれている。この銅像は、昭和62年に地域から寄贈されたもので、現在でも福澤先生が地元にも慕われているように思われた。

福沢小学校では、校長先生が資料を作成され、学校の歴史について説明して下さいました。福沢小学校の教育目標として「自ら学べ、ともに考え、行動する子ども」をあげられ、今でも福澤先生の教えが受け継がれているように感じた。

今日も児童の健やかな成長を見守っている福沢先生の銅像を、きれいに布で拭き、掃除させて頂いた。

⑦ 旧福沢小学校

足柄森林公園丸太の森には、昭和8年に建てられた旧福沢小学校の校舎が移築され、保存されていた。校舎内も見学でき、木の廊下、木の天井、木の窓枠、木の机と椅子等々、どこか懐かしい小学校風景が残っていた。

ふくざわ公園

東京三田の臨濟寺から開墾された地を好む、大魯に宗が
千津島天福寺住持に入られたのが明治9年である。
明治維新の時、理想家、教育者として活躍した福澤諭吉は
親交深かった大島在籍のもとをたびたび訪れた。
明治22年町制敷かれた地、新しい時代を夢みて東洋一
福澤諭吉の福澤(ふくざわ)を好む地と名づけた。
この公園の地は天福寺のゆかりの地をもつてふくざわ公園と名づけ、
後世に夢と希望を授け合える場にと願っている。

上記の他、福沢幼稚園、ふくざわ公園、福澤第一発電所もめぐり、そして、近くのアサヒビール工場の見学をして、美味しいビールもほどほどにたしなみ、帰路につきました。

今回の旅であらためて、福澤先生は、箱根にまで近代化の種をまき、箱根には先生の西洋の啓蒙思想が息づいていると、感じました。そして福澤村の人々にも慕われていたように、福澤先生の優しさにも触れた旅となりました。

鈴木和子



福沢小学校の中庭にある福沢諭吉先生の銅像



現在の福沢小学校



昭和8年に建てられた旧福沢小学校



福沢諭吉先生がたびたび訪れた天福寺